



社員一丸で早期再開を決定!!

プリント電子研究所はプリント基板の設計、製造加工事業者。小ロット・オーダーメイド対応、大型プリント基板の製造が強みで、話題のヒッグス粒子発見に使う巨大加速器にも同社の基板が用いられている。

広野工場竣工20周年となる昨年、東日本大震災に遭遇。原発事故による避難指示で退避をしたが、同年7月に操業を開始した。

残念ながら社員の数名は列を離れてしまったが、清新で意欲あふれる新たな人材を確保し、社員一丸となって立ち向かう決意をした。

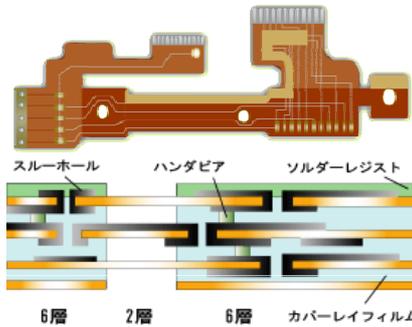
非常に困難な状況ではあったが、今年に入って、敷地内の除染や建屋の増改築を行い、今年7月の新年度には、新社長に交代をした。

復興に向けては課題も多い。従業員の健康のためには、町に医療設備の充実を期待する。

除染のあとの廃棄物をいつまでも積んでおけないので、中間処理施設についても、早期方針決定を希望する。



—工場の復興後、アットホームな雰囲気の中で行われた広野工場20周年記念式典—



当社の製品例(多層フレキシブル配線板)



超大型エッチング機の導入 1



超大型エッチング機の導入 2

「戻るのは放射能が怖かったが、会社を担う責任は自分にあると言い聞かせて覚悟をして戻ってきた」と、当時の思いを語る。

今年の7月に就任した
株式会社プリント電子研究所
代表取締役 矢浪興造社長



「働かないでいるより働いているほうが良いに決まっている。こうして元気ががんばっている企業の姿を県外の方々にも知ってもらいたい」と社のPRに励む。

同社取締役 矢浪裕志会長



詳しくは、株式会社プリント電子研究所ホームページをご覧ください。

<http://www.pdk21.com/home.html>

◆◆◆ 復興に向けた事業者からのメッセージ ◆◆◆

「広野工業団地にあって震災に負けずに頑張っている元気な会社があるんだ」ということを政府にわかしてもらい、広野町立地企業連絡協議会会長として是非復興を実現していきたいと思っております。

弊社においても、清新で意欲溢れた新たな人材の確保とその後のOJTによる早急な戦力化により、少しでも早い復興を目指しております。

みんなが明るくがんばっているところにこそ、人は集まると信じて参ったところ、この10月末には女性社員の応募が立て続けにあるなど、よい風が吹き込んできています。

今後とも社業に精励いたすとともに、広野町から元気を発信していきたいと思っております。皆さんもがんばりましょう。